第39回児童生徒読書感想文コンクール

今年度で39回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今回も優秀な作品が数多く寄せられ、28点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童・生徒の皆さんを紹介します。また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。

※コンクールの審査対象は小学校３年生以上。

小学校の部 3年生

参加数　50点

▶最優秀賞／沢原　美義 さん（弟子屈小）

選んだ本：左手がなくてもぼくは負けない！

▶優秀賞／
金澤　憲汰 君(弟子屈小)
北林　聖也 君(美留和小)

小学校の部 4年生

参加数　65点

▶最優秀賞／石川 なでし子 さん（川湯小）

選んだ本：ペカンペと森のカムイたち

▶優秀賞／
中村　諒 さん(美留和小)
保坂　凱風 君(奥春別小)
本間　由奈 さん(和琴小)

小学校の部 5年生

参加数　65点

▶最優秀賞／芝田　洸太郎 君（弟子屈小）

選んだ本：トム・ソーヤーの冒険

▶優秀賞／
嶋津　希穂 さん(弟子屈小)
阿部　宏紀 君(美留和小)
三田村　優音 君(昭栄小)

小学校の部 6年生

参加数　60点

▶最優秀賞／西端　愛香 さん（弟子屈小）

選んだ本：獣の奏者

▶優秀賞／
齋藤　倫太郎 君(川湯小)
坪井　謙和 君(弟子屈小)

中学校の部 1年生

参加数　56点

▶最優秀賞／芝田　遥夏 さん（弟子屈中）

選んだ本：シートン動物記

▶優秀賞／
敦澤　賢太 君(弟子屈中)

中学校の部 2年生

参加数　63点

▶最優秀賞／山崎　美玖 さん（弟子屈中）

選んだ本：ひめゆりの沖縄戦 少女は嵐のなかを生きた

▶優秀賞／
髙橋　志歩 さん(弟子屈中)
松井　風蕗 さん(弟子屈中)

中学校の部 3年生

参加数　71点

▶最優秀賞／上野 絵里奈 さん（弟子屈中）

選んだ本：宇宙のみなしご

▶優秀賞／
高橋　希歩 さん(弟子屈中)
鈴木　理美 さん(川湯中)

高等学校の部 1年生

参加数　47点

▶最優秀賞／藤江　弥生 さん（弟子屈高）

選んだ本：図書館戦争①

▶優秀賞／
杉山　明日香 さん(弟高)
岡﨑　千尋 君(弟高)

高等学校の部 2年生

参加数　56点

▶最優秀賞／若月　恵理 さん（弟子屈高）

選んだ本：箱庭図書館

▶優秀賞／
千葉　紗莉奈 さん(弟高)
江上　潔香 さん(弟高)

■小学校３年生の部　最優秀賞
わたしもゆう気をもらったよ
弟子屈小学校　沢原　美義 さん

本の表紙に、左手のない男の子が写っていたのを見て、わたしは、「なぜ、男の子の左手がないのだろう。」と、ふしぎに思いました。

このお話は、ブンヘイン君という男の子がお母さんを助けたくて、草むらに落ちている金ぞくでできた小さな物を見つけて、それを売ればお金になると思い、お母さんをよろこばせようとしたところからお話が始まります。

この時、わたしは、お母さんを助けるために自分からすすんで家のお手伝いをしているので、ブンヘイン君はやさしい男の子だと思いました。わたしもお母さんのお手伝いをしていますが、ブンヘイン君のようにお金をかせいではいません。日本は、子どもがはたらかなくてもごはんを食べることができます。そして、日本にはべんりな物もたくさんあります。そんな日本に住むわたしは、幸せなのだなと思いました。

ブンヘイン君がひろった金ぞくの物は、地雷でした。地面や地中におかれる、せんそうに使われるへいきです。ブンヘイン君がそれを地面に投げると、「ドーン!」と、あたりをゆるがす大ばく発がおこり、同時に、ブンヘイン君の左手がなくなってしまいました。

ブンヘイン君は、左手の先がなくなり、ショックを受けました。

「死んだほうがましだ!」と、毎日、なきつづけました。わたしがもし、地雷で左手をなくしてしまったら、ブンヘイン君と同じ気もちだったと思います。

ブンヘイン君には、お父さんがいません。そして、心配してくれているお母さんの気もちにも気づくことができました。

「ぼくが、しっかりしないでどうするんだ。自分がはたらかなきゃいけないんだ。」と、ブンヘイン君は考えました。わたしがブンヘイン君だったら、生きていたくないと思っていたことでしょう。ブンヘイン君は、とても心が強い男の子だなぁと思いました。

ブンヘイン君の他にも、目が見えない子や足がない子などが、カンボジアという国にはたくさんいるそうです。それでもみんな、ゆめをもってがんばって、生きているそうです。このことを知って、わたしは、カンボジアの子どもたちを助けたいと思いました。ぼ金をしたり、ペットボトルキャップを集めたり、わたしにもできることがたくさんあると思いました。そして、ブンヘイン君のように、地雷のひがいにあった人たちをはげましてあげたいです。地雷もなくしたいです。

（書名）「左手がなくてもぼくは負けない！」
高橋うらら／著

（寸評）３年生の美義さんがカンボジアの子どもたちに今できることは何なのか、というところまで考えて書かれており、とても感心しました。本の世界にどっぷりと浸かって「もし、私がブンヘイン君だったら…」と考えながら読み進めたからこそ、ここまで考えることができるのですね。これからも、たくさん本に出会って、自分の世界観を広げていってくださいね。

■小学校４年生の部　最優秀賞
ペカンペと森のカムイたち
川湯小学校　石川　なでし子 さん

ペカンペとは、あさ黒くて、三角の形をしていて、かたいトゲが二本ある草の実です。話を聞いていると、ただの草の実に感じますけれども、実は違うんです。ただの草の実なのです。何があってもあきらめない！たちむかう！そんな草の実がする行動は、すばらしいことばかりです。

クシロの国にはたくさんの湖がありますが、なぜかペカンペはトウロ湖にしか住んでいません。それはいったいなぜでしょう。

旅の始めは、マチネシリの大あくびでした。ペカンペはマチネシリ(めあかんだけ)の上にある小さな赤いぬまに住んでいました。でも、ある日マチネシリの女神様が大あくびをしてしまい、ぬまの水は、ぐつぐつにえたぎってしまい、ペカンペはぬまにすめなくなりました。それで、住める湖をさがしにペカンペは旅に出るのです。ですが、ペカンペには、かたい二本のトゲがあるため行く先々で、きらわれてしまいます。アカン、クッシャロ、マシュウへと湖を転々としますが、どの湖でもきらわれてしまうのです。そこで、神様、動物たちの協力により、ペカンペが、本当に幸せにくらせる湖が、見つかったのです。それがトウロ湖です。トウロ湖には、ワカサギという魚も住んでいます。そのワカサギも、ペカンペを受け入れてくれたのです。

山や湖の神様は、人のすがたをしてあらわれることができるそうです。アカンの女神様は、小さくてかわいらしいすがた、クッシャロの神様は、わかくて美しいすがた、トウロの神様は、おばあさんのすがた。みんな、ちがったすがたをしています。わたしは、神様たちとお話をしたいです。話したいことは「としはいくつですか?」です。これは、一番聞いてみたいです。

私がこの本を読んで心にのこった場面は、ペカンペが、アカン湖から、クッシャロ湖に行く時に使った、こおったオサッペ川のすべり台をすべるところです。なぜ、この場面がこころにのこっているかというと、ペカンペが、氷のすべり台を楽しそうにすべるからです。わたしも、ペカンペといっしょに氷のすべり台を、いろいろなすべり方をして、どのすべり方が一番速いかきょう走したら楽しいだろうなと思いました。

それから、ペカンペが、キムンカムイ(くま)に乗って、トウロ湖をめざした時のことも、とてもわすれられません。そのころには、神様や動物、みんながペカンペをおうえんしたのですが、マシュウの女神様にペカンペのことを悪く言ったニオウカムイ(エゾリス)までもが、木のてっぺんに上がってキムンカムイの道案内をしたからです。ペカンペが、今まで努力してきたことで、キムンカムイが言ったように、「ペカンペは勇気があって、やさしく、れいぎ正しいがんばりやだ。」ということがみんなに伝わったんだなと思いました。

ペカンペがした行動は、わたしにとって、とてもむずかしいことです。なぜなら、色々な湖から追い出されたのに、それでも、感しゃするなんてなかなかわたしではできないことです。どうしたらペカンペのようになれるのでしょう。

もう一つ心にのこったのは、トウロ湖についたペカンペが、おばあさんのすがたをした女神様とワカサギたちに、あいさつするところです。ペカンペは、「ぼくの葉っぱの下にかくれれば、鳥たちは、ぼくのトゲをこわがってみなさんを食べに来ません。それから、くきにたまごをうみつければ、川から入ってくる魚からたまごを守ることができます。」と、自分がきっと、みんなの役に立てることを話しました。そして、ペカンペの言葉で一番おどろいたことは、「カラさえむけば、ぼくたちはとってもおいしいんです。コタンの人々もむりにワカサギをとらなくても、ぼくたちを食べてくれれば、うえることもありません。」と言ったからです。わたしは、ペカンペのこの言葉を読んで、「本当に！本当に、こんなことを言っていいの！?」と思いました。だって、自分を食べろと言っているのと同じじゃないですか！わたしだったら、そんなことぜったいに言いません。だって長生きしたいじゃないですか。みなさんもそうでしょう?

わたしが、この本から教わったことは、「けっしてあきらめないこと」です。わたしはこれから、一回やってだめだったことでも、「よし！もう一回。」とあきらめないことを身につけようと思います。ぜひみなさんも「あきらめない！」をやってみてはいかがでしょうか。

わたしはいつか、ペカンペに会いに、トウロ湖に行こうと思います。できたら一度、食べてみたいなあ。ぼくぼくのゆでペカンペを。

（書名）「ペカンペと森のカムイたち」
はたさみつる／著

（寸評）感じたことを素直に表現できていることが、素晴らしいです。なでし子さんがこのお話を読んで感じた、疑問や感動といった心の動きが、そのまま伝わってくるようで、思わずこちらも引き込まれてしまいます。なでし子さんが「けっしてあきらめない」という大切なことを学んだこの本と、近くにありながらあまり知らなかった「ペカンペ」のことをもっと知りたくなりました。また、良いお話を紹介してくださいね。

※そのほかの最優秀作品については、来月以降順次紹介していきます。